

# I 建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標

## 1. 【建学の精神・教育理念について】

(1) まず建学の精神・教育理念が確立していればそれを記述し、その建学の精神・教育理念が意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述。

《建学の精神》

仁愛学園は 1898（明治 31）年、聖徳太子の四箇院事業、中でも敬田院の精神を体する教育事業の実現を願って設立された。

すべてのいのちの尊厳と連帯に目覚め、美しい世をひらく灯となる人材

仁愛（自覚）

兼済(実践)

の養成を志している。また、女子教育がきわめて軽視されていた当時の状況を憂い、女子教育機関として発足した。これは創立者が 2 年間の欧米視察の結論として得た、宗教的情操の深さと女子の教養の高さが日本の将来を左右するという信念に基づくものである。

本学は、1965（昭和 40）年、地域の強い要望を受け、学園建学の精神に基づく高等教育機関として開設された。

《教育理念》

建学の精神としての「仁愛兼済」に基づき、「仁愛」については「四つのつながり－四恩」の自覚に力点を置き、「兼済」としては修六和敬・常行法施・志勇精進・心不退弱・為世灯明の経文に基づき、「三つの実践－和敬・精進・反省」を掲げて、美しい世をひらく使命感と実践力を身につけた人材を養成することが本学の教育理念である。

(2) 次に現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述。

- ①本学の建学の精神・教育理念については、『学生のしおり』及び『職員のしおり』で学生、教職員に周知している。
- ②カリキュラムの中に、教養科目の必修科目として「人間と仏教Ⅰ」を開設し、学園長自ら本学の教育理念の背景にある精神を教えている。なお、この講義の最初において本学園の建学の精神・教育理念をまとめた『和』の本（入学時配布）を必読させ、全員にその感想を 4000 字程度のレポートとして提出させている。（ほとんどの学生が、本学の精神や歴史に触れ、入学の感動と 2 年間の決意を記している。）
- ③さらに、教養必修科目として「人間と仏教Ⅱ」を開設し、この時間をアッサンブリアワー（AH）とし、「平成 17 年度 AH 計画表」に従って、建学の精神や教育理念を啓蒙・具現化するための行事・活動等を行っている。
- ④入学式、卒業式、教授会等で学長が常に学生や職員に語っている。

(3) 建学の精神・教育理念を周知するための行事等の特別な取組みを行っている場合は、その概要を特記事項(1)に記述。

特記事項(1)に記述した。

## 2.【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科・専攻（専攻科を含む。以下「学科等」という。）を設置している。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているのではないか（例えば、学科・専攻の設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。したがって、ここではそれぞれの学科等が設置している具体的な教育目的や教育目標を記述。

### ①本学の教育目的

本学は、学則第 1 条に記載のとおり、「建学の精神に則り、深く生活科学、幼児及び音楽に関する専門の学芸を教授研究し、徳性の涵養に努め、教養豊かにして健全有為な女性を育成する。」ことをその目的としており、建学の精神に関する教育を含む共通の教養教育の基盤の上に、それぞれの学科（生活科学学科・幼児教育学科・音楽学科の 3 学科）における教育目的に沿った専門教育を行うこととしている。

### ②学科の教育目的

#### < A 生活科学学科 >

生活科学学科は、生活に関する科学的理解を基礎とし、生活環境・生活情報・調理科学・食物栄養の各分野における専門的知識と技術の教授研究を通して、心豊かで有能な人材を育成することを目的とする。

#### < B 幼児教育学科 >

幼児教育学科は、幼児の理解及びその指導に関する専門的知識と技能に関する教授研究を通して、心豊かで有能な人材を育成することを目的とする。

#### < C 音楽学科 >

音楽学科は、器楽及び声楽の各分野における演奏表現技能の修得並びに音楽療法に関する教授研究を通して、豊かな感性の練磨と人間性の回復を探究し、社会の文化と発展に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

なお、各学科では本学の教育理念、学科の教育目的を具現化し、達成するためにそれぞれ努力目標を設定している。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標は、現在はどういう方法で学生や教職員に周知しているかを記述。

本学では年度始めに、各学科で教育目的の確認、努力目標の審議を行っている。学科会議で決定されたその年の努力目標は代表教授会の審議を経て、全学教授会に報告される。

学生に対しては学期ごとにオリエンテーション、ガイダンスを行い、その中で学科の教育目的、努力目標の周知徹底を図っている。また、月に 1 回アッセンブリーアワー（AH）を設置し本学の建学の精神や教育理念を啓発し、具現化させるためのいろいろな行事を行っている。さらに、各学科では月 1 回のミーティングアワー（MH）を開き、学科長、専攻主任、クラスアドバイザー等が学科の努力目標の啓発及びその実践について話をしたり、アドバイスをしたり、学生同士で話し合いをさせたりしている。

(3) 教育目的や教育目標を学生や教職員に周知するための特別な取組みを行っている場合は、その概要を特記事項(1)に記述。

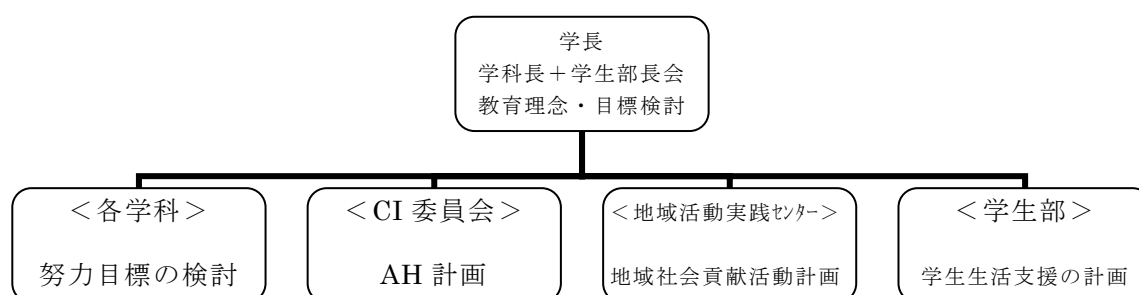
特記事項(1)に記述した。

### 3. 【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直しや教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述。また点検を行う組織、手続き等についても記述。

従来、新年度の教育計画の策定に際して、学科・専攻会議、教授会で、本学の教育理念、学科の努力目標及び本学の教育・研究、組織運営、学生支援、改革・改善等の計画が全教職員で検討され、審議され、承認され決定されている。しかし建学の精神や教育理念は本学の学長（理事長）がその精神を教職員や学生に説くのが常であって、見直しや改善を検討したことはない。平成 17 年度末に本学の建学の理念やその解釈、各学科の教育目的との関連を検討する場として、学長、学科長会議を開くことにした。

すなわち下図のように、学長、学科長、学生部長の会議で年度初めに教育理念・目標について解釈の確認または見直しが検討される。その結果を受けて各学科では努力目標の検討、CI 委員会では AH の計画、地域活動実践センターでは地域社会貢献活動計画、学生部では学生の生活指導の指針の検討を行う。その結果は当該年度の教育計画になり、全教職員参加で審議・検討される。



(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直しや教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会又は短期大学教授会がどのように関与しているかを記述。

教育理念の解釈の見直しや教育目的・目標の点検の結果はその他の自己点検・評価の結果とともに自己点検評価委員会、代表教授会、全学教授会で審議されその結果は理事会に報告されている。

#### 4. 【特記事項について】

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述。また当該短期大学の独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述。

<建学の精神・教育理念を周知するための行事等の特別な取組み>

##### ① [今日一日のつつしみ]

われをわれたらしめる働き、いのちの背景の深さ、広さ、重さ、尊さを仏教の四恩の教えにもとめ、「今日一日のつつしみ」を日々、全学で唱和して、生かされるいのちの再認識とその感動に基づく、兼済、共照、社会貢献への取り組み力を湧きたたせている。

##### ② [学校名]

学校名を仁愛兼済という大無量寿經の經文から採り、仁（つながり合い、支え合う人間関係）と愛（人間のみならずすべてのいのちの連携）の自覚と、兼済（その自覚に基づく済い合いの実践）という建学の精神を端的に表示している。

##### ③ [学 章]

学園章は、仁愛を六本の松葉で囲み、すべてのいのちは六方すなわち東西南北上下の全方向から無限に捧まれ支えられているという六方諸仏証誠の教えを象徴し、限りないつながりの自覚を示している。本学の学章はそれを受けて大学を六本の松葉で囲んでいる。

##### ④ 特別行事—開学 40 周年行事

平成 17 年 10 月に開学 40 周年式典を挙行了。その前後に関連事業や諸行事を行うことを理事会で決め、その準備として平成 15 年度より学内に 40 周年特別委員会を設置した。平成 16 年度前半で、テーマを建学の精神の「和」「四つのつながり—四恩」をふまえて「つながる」、サブテーマを「美しい明日への灯をかかげて」と決定した。教授会において今後の教育活動の合言葉として推進することを話し合った。

平成 17 年度にかけてメインテーマ「つながる」のもと、式典企画、学科企画行事、パンフレット、新聞広告等を推進した。式典当日の盛り上がり、参加学生の感動等大いに成果を挙げた。

<教育目的や教育目標を学生や教職員に周知するための特別な取組み>

2 - (2) に記載したとおりである。なお、各学科では教育目的達成のためのアクションプランとして「平成 17 年度教育計画」の中に努力目標を定めて実践・評価している。

以下、3 学科のそれぞれの実践とその成果について記す。

< A 生活科学学科 >

学生に対する取組みとして、学科共通の毎月のアッセンブリアワー (AH)、ミーティングアワー (MH) 等の活動を行い、これにより教員と学生及び学生相互間のコミュニケーションを高め、学生のさまざまな問題の把握に努めた。また、地域との連携を求め、講義の中に現場の専門家を招聘したり、学生にインターンシップの積極的参加を促したり、地域社会と関連のある課題研究や学外実習や卒業研究を促したりなど地域に密着した教育研究活動を展開した。その他、海外研修プログラムを企画し、参加した学生は異文化体験で

視野を広め、創造性を高めた。

なお、教育目的のもとでの実践の結果として、就職課との綿密な連携は、平成 17 年度の就職率 100%につながった。

#### < B 幼児教育学科 >

AH においては、幼児教育者としての教養と豊かな人間性の涵養を目指した講座等を開催し、MH においては、クラス対抗のスポーツ競技等を通して教員と学生の交流および学生相互間のコミュニケーションを深め学生のさまざまな問題の把握に努めた。目標啓発の手段には、幼稚園・保育所・養護施設等、現場の専門家を招聘した特別講座を開催し、夏季・冬季・春季の休暇中における保育ボランティアの積極的参加を就職指導課と協力して推進した。また学外実習、卒業研究など地域に密着した研究活動や研究発表を展開充実させた。海外研修プログラムにおいて「オペラ・ナツィオレーナ・モンテッソーリ本部での研修（半日）」と「サマーセンターでの幼児・児童との交流（半日）」を行った。教育目的に繋がる結果として、平成 17 年度の就職率は 100%であり、特に専門職（保育士・幼稚園教諭）への就職率は 89.4%であった。

#### < C 音楽学科 >

演奏コースについては、確実な音楽技能の修得と、その中で育まれるより豊かな感性の練磨によって、真に社会の文化に貢献できる人材が育成されると考え、学生の学習支援に最も力を注いだ。一方、平成 13 年度にスタートし 5 年目となった音楽療法コースは、資格認定コースであることを踏まえて、確実な音楽能力を養成することを最優先とし、1 回生後期から早々に福祉現場での実習を体験させるなど、理論と実習両面の充実した学習活動を通して、音楽療法士としての使命感を充分身につけさせた。

特に平成 13 年度を境に、入学生の音楽基礎力の多様化が浮き彫りになり、基礎学習の成果が上がるよう、習熟度別授業を継続実施している。さらに、演奏コース、音楽療法コース生が共に演奏旅行や定期演奏会に加えて、地元の要請によるコンサート出演やボランティア等、地域に密着した活動を通して、音楽家や音楽療法士として社会の発展に貢献できる即戦力を育成してきた。学科とコースの教育目的に繋がる結果として、平成 17 年度の就職率は 100%であり、専門職(音楽講師・音楽療法士等)就職率も 70%を確保できた。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述。

特になし。